



今年度、市を始め太陽光発電普及拡大センター（☎043・239・6200）、太陽光発電相談指導センター（☎078・371・6000）では住宅用太陽光発電システムの導入促進を図るために補助金を交付しています。これら補助事業は併用可能ですが、補助を受けるには事前申請が必要です。各補助額には上限があり、また予算の範囲内での補助です。詳しくは各窓口へお問い合わせ下さい。

熱中症に注意！

過度の節電により、暑さ対策を忘れてはいけません。猛暑となった平成22年度、熱中症による死亡者数は全国で1718人にものぼります。発生場所では、住宅・庭が全体の約46％。年齢別では全体の約79％が65歳以上の人でした。このように熱中症は、炎天下の屋外に限ったことではありません。閉りません。閉め切った車中や室内でも熱中症を発症します。

そもそも熱中症とは、高温多湿な環境下で体内の水分や

塩分のバランスが崩れたり、体温調節機能がうまく働かないことにより、体内に熱がたまり、筋肉痛や大量の発汗、吐き気や倦怠感などが現れる症状です。さらに重症になると意識障害などが起こります。

熱中症を防ぐには？

熱中症の予防には、水分補給と暑さを避けることが必要です。

①**水分補給** 汗をかく前にこまめな水分補給。汗をたくさんかいたときは塩分補給。

②**暑さを避ける** 外に出るときは帽子や日傘を利用。室内ではカーテンやすだれ、緑のカーテンなどを活用。

③**体調管理をしっかり** 十分な睡眠やバランスのとれた食事など生活リズムを整える。日頃から適度な運動で体づくり。

④**服装を工夫** 吸汗や速乾素材の服を活用。襟元を締め付けない。

⑤**周囲に予防を呼びかけ** 子どもや高齢者は自分では気付きにくい。周りの人が協力して呼びかけ合う。

あなたの家の節電対策チェック

節電メニュー（日中在宅の場合）		節電効果 (削減率)	チェック
①	室温 28℃を心がける。 ※設定温度を2℃上げた場合	10%	☐
②	“すだれ”や“よしず”などで窓からの日差しを和らげる。 (エアコンの節電になります)	10%	☐
③	無理のない範囲でエアコンを消し、扇風機を使用する。 ※除湿運転やエアコンの頻繁なオンオフは電力の増加になる場合があるため注意が必要。	50%	☐
④	冷蔵庫の設定を「強」から「中」に変え、扉を開ける時間をできるだけ減らし、食品を詰め込みすぎないようにする。 ※食品の傷みにご注意ください。	2%	☐
⑤	日中は不要な照明を消す。	5%	☐
⑥	テレビは省エネモードに設定するとともに、画面の輝度を下げ、必要な時以外は消す。 ※標準→省エネモードに設定し、使用時間を2/3に減らした場合	2%	☐
⑦	温水洗浄便座の温水のオフ機能、タイマー節電機能を利用する。	1% 未満 ※いずれかの対策により	☐
⑧	⑦機能がない場合、使わないときはコンセントからプラグを抜く。		
⑨	早朝にタイマー機能で1日分のお米を炊いて、冷蔵庫や冷凍庫に保存する。	2%	☐
⑩	待機電力を削減するためリモコンの電源ではなく、本体の主電源を切る。長時間使わない機器はコンセントからプラグを抜く。	2%	☐

※資源エネルギー庁「家庭の節電〈メニュー〉」より「※資源エネルギー庁推計※住宅家庭の日中の最大使用時（※1200W）に対する削減率の目安」

なぜ節電が必要なの？

東日本大震災が発生して約16か月が経ちました。地震により発生した巨大津波に東京電力福島第一原子力発電所も襲われ、周辺地域に放射性物質が飛散、今も多くの人が避難生活を余儀なくされています。日本中から原子力発電所（原発）の安全性に疑問符を付け、定期点検で停止した原発の再稼働にストップの声があがりました。

関西電力管内の原発11基も全国各地の原発同様に定期点検のために順次停止され、2月20日に最後まで稼働していた高浜発電所3号機が停止したことで11基全てが停止しました。

5月19日発表の関西電力の資料によると、昨夏の同管内の供給量は2947万kW。そのうち337万kWが原子力発電によるものでした。今年の夏、同管内の最大供給電力量は2542万kWとなっている一方で、今年度の8月ピーク時の想定需要電力量は2987万kWと445万kW（約15％）の供給不足となる見込みです。需要が供給を少しでも上回った場合、停電が発生

します。

このような事態を避けるため政府は大飯原発3、4号機の安全性と必要性について説明を行い再稼働の方針を固めました。ただ、今から大飯原発が再稼働したとしてもフル稼働は7月下旬以降になる予定。またフル稼働後も需給はギリギリの状態に変わらず、火力発電所などでトラブルが生じれば電力不足は避けられません。

関西電力では電力需要の高まる7月2日から9月7日までの平日9時から20時の間、家庭や職場で昨年以上の節電を求めています。

また資源エネルギー庁では「家庭の節電〈メニュー〉」（広報7頁）を作成しています。一度、ご家庭の節電対策をチェックしてみてはいかがでしょうか。

	エネルギー (電力)自給率	二酸化炭素排 出量(1999年比)
淡路島の 現状	7%	-19%
2016年	17%	-32%
2030年	35% (国目標20%)	-55%
2050年	100%	-88% (国目標-80%)

▲あわじ島環境未来島特区のエネルギー自給及び二酸化炭素排出削減数値目標

力、地熱、バイオマスなど）です。今月から社会全体で再生可能エネルギーの普及を図るため、「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」がスタートしました。広く普及することがエネルギー問題の解決に大きく貢献します。

あわじ環境未来島特区

淡路島は昨年、「あわじ環境未来島特区」の指定を受けました。内容は、エネルギーと農を基盤に暮らしが持続する地域社会の実現を目指すものです。その施策の1つとして、地域資源を生かした再生可能エネルギーの創出を目指します。淡路島は年間の日照時間が2150時間を超える国内有数の日照量を誇り、太陽光発電に適した地域です。